

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

「科学する心」を考える／社会福祉法人喜慈会 子中保育園（神奈川県）

幼児教育支援プログラムの主題「科学する心を育てる」について、どのようなイメージをおもちですか？

今回は、「科学する心を育てる」についての考え方を保育者間で話し合い、共有するために工夫を図っている園の実践をご紹介します。

主題の捉え方について、また園内研修や日々の保育を振り返る方法としても、参考になる実践です。



● 研修の工夫／保育者

✦ 「科学する心」の考え方を共有するために

本園では、日々の保育において「全保育者が全園児の担任」という考え方を大切にしている。活動実践についても、各担任が自分のクラスの活動デザインと実践を行うだけでなく、他の保育者たちと常に計画や進捗を共有して進めている。

「科学する心を育てる」について自分たちの考えを整理するため、多様な考えを出し合いつつ共有する方法である付箋紙を用いたブレインストーミング、多様な考えを整理する方法であるKJ法[※]を実施した。これらの手法を用いることにより、誰か一人の考えに依存することなく、個々の考えが確実に、全員の共通認識に織り込まれると考えた。

[※]参考文献：川喜田二郎、発想法—創造性開発のために、1967中公新書

✦ ブレインストーミング～意見や考えを出し合う～

まずは、「科学する心」のイメージを共有するため、非常勤の保育者も含めた全保育者8名（実施当時）で、「科学する心」を巡る考えや、子どもの態度・行動について、10分～15分間で、付箋紙1枚に1件ずつの内容を記した（図1）。

その結果、101枚の付箋紙が集まり、これを全員で共有した（図2）。

平均して各自10件以上の考えを出したことになる。多数の意見としては、8人中4人が挙げた「観察する」「試す」、3人が挙げた「疑問に思う」「発見する」「調べる」「比べる」「経験」



図1



図2

「楽しむ」があった。ほかには、各自が多様な観点から多彩な表現で「科学する心」を記していた。

✿ KJ法～出し合った考えを整理する～

同じ考え、似た考えを話し合いながら付箋紙で整理した結果、表1の①～⑬のグループに分けることができた。

各付箋紙を整理する際に、自分がどのような意図でその言葉を書いたのかについても述べ合った。

各グループの象徴する言葉を、グループ名として表1の<>で示しており、図3では、ピンク色の付箋紙に当たる。グループ名についても、みんなで話し合いながら挙げた(図4)。



図3



図4

グループ同士の関係も考察できるよう、図3のように各グループの付箋紙は、それぞれ別紙に貼り付け移動可能な状態で検討した。保育者の態度、行為に関わるものとして表2に示す意見が出た。

● 表1 本園における子どもたちにとっての「科学する心」とは

グループ名	具体的な意見・考え
① <科学する心の土台>	自己肯定感、気づく柔軟な心、(言葉、情報)を拾う力
② <興味・関心>	興味を持つ、好奇心、変化や違いに気づく、目を向ける
③ <発見>	発見、見つける
④ <不思議>	疑問に思う、不思議に思う、不思議を探す、「どうして？」
⑤ <観察>	観察する、じーっと見る
⑥ <比べる>	比べる
⑦ <実体験>	作る、実際に行う、いろいろなことを知ろうと思う、やってみたくて思ったことをどんどんやってみる、実装する(作る)、興味のあることを続ける
⑧ <試す>	試す、試行錯誤、実験する、試みを何度もする、子どもの声や“どうして”を実現する、経験したことを目に見える形にする
⑨ <調べる>	調べる、知る
⑩ <考える>	考える、発想する
⑪ <納得するまで考える>	確かめる、探す、探究心
⑫ <共有・共感>	共有する、友だちと共有する、知らせる
⑬ <経験>	経験、経験からの気づき
⑭ <手段>	道具を使う、材料を集める
⑮ <期待感>	ワクワクする、ドキドキする、楽しむ、面白がる
⑯ <科学のフィールド>	生活の中で目にしたこと、遊び、自然に触れる

● 表2 本園における「科学する心」を育むこと

項目	具体的な意見・考え
<環境づくり>	話し合う、興味が育つ環境を整える、知識+実体験+屋内外の環境づくりで興味が深まる、専門家との連携
<子どもの“声”>	子どもから出てきた言葉をひろう、子どもの言葉、子どもの会話から興味をひろう

✿ 「科学する心」の育ちとは

上述の話し合いで共通認識できたのは、私たちにとって「科学する心を育てる」ことは、特別な行為ではなく日々の遊びを中心とした保育実践そのものにあるということである。したがって、ブレインストーミングで出てきた言葉も、保育者全員が、“遊ぶ子どもたちの様子”を思い浮かべながら書き記していた。そして、本園が日常的に行っている保育において最も大切にしていることは、子どもたちの興味・関心に気づく、すなわち“声”を拾うことであることを再確認した。“声”とは言葉だけでなく、目や顔や頭の動き、表情、態度、行動などにも表れることと考えている。

- 全保育者によるブレインストーミングやKJ法による共有プロセスを通して、「科学する心を育てる」ことに関する考え方の多様性や共通性を、共有することができた。
- 表1により整理したグループ名①～⑫については、その後の実践の考察に生かした。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」